

令和7年産 やまだわら 栽培ごよみ

JAふくおか嘉穂
飯塚普及指導センター

1. 水管理及び主な作業

月	5月			6月			7月			8月			9月			10月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
水管理	浅水			間断灌水			中干し			間断灌水(飽水管理)			浅水			間断灌水				
生育	育苗期間			田植え	活着期	有効分げつ期			無効分げつ期	穂の生育期間			出穂	穂揃期	登熟期間			成熟期		
主な作業	○土づくり	○種子消毒	○播種	○基肥	○田植	○除草剤処理※1			○中干し		○穂肥①	○穂肥②	○いもち病防除	○ウンカ・カメムシ防除	(状況に応じて2回散布)※2			○落水	○収穫	

2. 雑草・病害虫防除及び施肥

【種子消毒】

薬剤消毒: 下記のとおり

名称及び希釈倍率	種子量	希釈水量	浸漬時間
テクリードCフロアブル(200倍) + スミチオン乳剤(1000倍)	10kgの場合	20ℓ	24時間

【箱施薬】

名称	使用量	使用時期	対象病害虫
ブーンゼクテラ箱粒剤	1箱当たり50g	播種時(覆土前)~ 移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズソウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ

※前年に「紋枯病」が多発した圃場はフルスロトル箱粒剤を使用

【施肥基準】

(kg/10a)

肥料名	基肥	穂肥①	穂肥②	成分量
全層施肥	ベスト444 50kg	-	-	N-12.25 P-7.0 K-7.0
	硫安	15kg	10kg	
基肥一発	ハイエムコート30 40kg	-	-	N-12.00 P-2.25 K-2.25

※表わらすき込みの場合は基肥を5kg/10a程度増やす。

【いもち病】

名称	10a当り使用量	使用時期	対象病害虫
ダブルカットバリダフロアブル	希釈倍率1000倍 散布液量60~200ℓ	穂揃期まで	いもち病 紋枯病
ゴウケツ1キロ粒剤	1kg	出穂5日前まで 但し、収穫30日前まで	いもち病
ゴウケツパック	10パック		

※穂いもち病防除時期: 「ゴウケツパックは、穂ばらみ期(出穂5日前)」「液剤・粉剤は出穂直前」に散布する事が重要です。

【補正防除】

名称	10a当り使用量	使用時期	対象病害虫
トレボン粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで	ウンカ類 (使用時期は発生に応じて散布 稲作情報参考)
トレボン乳剤	希釈倍率1000~2000倍 散布液量60~150ℓ	収穫14日前まで	

【雑草防除】

名称	10a当り使用量	使用時期
ラオウ1キロ粒剤	1kg	田植時~8日(ノビE2.5葉期まで)
エンペラー1キロ粒剤	1kg	田植時~10日(ノビE3葉期まで)
ラオウフロアブル	500ml	田植時~8日(ノビE2.5葉期まで)
エンペラーフロアブル	500ml	田植時~10日(ノビE3葉期まで)
ラオウジャンボ	10/パック	田植直後~8日(ノビE2.5葉期まで)
エンペラージャンボ	10/パック	田植直後~10日(ノビE3葉期まで)

※1 「やまだわら」は除草剤の成分「ベンゾピシクロン、メソトリオン、及びテフリルトリオン」に対し、感受性が高く、薬害で枯死します。ラオウ、エンペラー以外の除草剤をしようするときは上記の成分に注意してください。

【補正防除】

名称	10a当り使用量	対象雑草	使用時期
クリンチャーバスME液剤	1000ml/ 水70~100ℓ	ノビE 広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日~ノビE5葉期 但し収穫50日前まで
フォローアップ1キロ粒剤	1kg		田植後15日~ノビE5葉期 但し収穫60日前まで
クリンチャーEW	100ml/ 水25~100ℓ	ノビE	田植後20日~ノビE6葉期 但し収穫30日前まで
クリンチャー1キロ粒剤	1kg		田植後7日~ノビE4葉期 但し収穫30日前まで
2・4-Dアミン塩	80~120g/ 水70~100ℓ	水田雑草 (イネ科を除く)	有効分げつ終末期~ 幼穂形成期前 但し収穫60日前まで
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	500~700ml/ 水70~100ℓ	広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日~ 収穫前45日前まで
バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	3~4kg		田植後15日~ 収穫前45日前まで
リンバー粒剤	3~4kg		収穫30日前まで
バリダシン粉剤DL	3~4kg		収穫14日前まで
モンセレンフロアブル	希釈倍率1500倍 散布液量100~150ℓ		収穫21日前まで

【ウンカ・カメムシ防除】

名称	10a当り使用量	使用時期	対象病害虫
エクシードフロアブル	希釈倍率2000倍 散布液量60~150ℓ	収穫7日前まで	ウンカ類、 カメムシ類

※2 イネカメムシは出穂後の幼い穂の基部を吸汁し、不稔籾発生の要因となります。その為、出穂期と散布後7~10日の合計2回の防除が重要となります。

3. 品種の特性等

(過去2年間の試験結果により作成。気象条件により若干変動します。)

品種名	田植日	出穂日	成熟期	稈長	穂長	m ² 当り穂数	m ² 当り穂数	耐倒伏性	穂発芽性	玄米千重粒	玄米重(kg/10a)	耐病性いもち	耐病性白葉枯
やまだわら	6月15日	8月19日	10月9日	77cm	19.3cm	19.3cm	308	強	やや易	23.4g	614	やや弱	弱

4. 栽培のポイント

- ① 収量確保のため、多肥栽培とします。
- ② 移植時期は6月1~10日までとします。
- ③ いもち病には比較的強い品種ですが、多肥栽培のため、葉色が濃い場合や、天候によっては発生が見られることがあります。
- ④ 生育期間が長いため、トビイロウンカ(秋ウンカ)多発年は防除となります。(稲作情報参考)
- ⑤ 登熟を確保するために、収穫前まで水の確保をお願いします。
- ⑥ 栽植密度は50株/坪(15株/m²)以上にしてください。
- ⑦ 水稲育苗箱全量施肥を行う場合は、育苗箱まかせN400-120を1箱当たり1.0kg入れ(箱底施肥)、田植時に10a当たり18箱使用で調整する。

—農薬使用上の注意事項—

- 農薬の散布前は農薬ラベルを必ず確認しましょう。 ○ 農薬を調剤又は散布する際は、マスクや保護メガネ、ゴム手袋等を着用しましょう。
- 近接作物や住宅への散布防止を徹底しましょう。 ○ 散布後は散布器具(タンク・ホース)の洗浄を必ずしましょう。 ○ 防除履歴は正確に記帳しましょう。